

不便を知って遊んでみよう

今は何かと便利な時代です。不便を知っている子どもが、それを「便利」と感じるのはいいのですが、便利が当たり前と思っている子どもは、不便な時には工夫するという事を知りません。

また、大人の“便利”は動かずに出来る事が多いです。それでは子どもの身体が育ちません。そこで提案するのが、不便を知る事です。

不便を少しでも知っておく事が心と身体を強く豊かにしてくれるはずです。

例えば、「歩く」。もう歩ける子どもなら、ベビーカーや抱っこで移動するのではなく、出来るだけ歩きましょう。道端の花を見たり、景色をみて、一緒に感動することで子どもの世界が広がります。

それをしないと『抱っこしないといかなーい』というような他力本願な思考になってしまいます。

遊びなら、積み木やおままごとなどシンプルな遊びで想像力を膨らませ、子どもの五感を刺激しましょう。派手な電子音や仕掛けがあるおもちゃ、iPadなどのタブレットやスマホの画面では、夢中になっているように見えますが、子どもは受け身になってしまい、考える力が育ちません。

遊び場ではもちろん自然が一番です。自然はある意味「不便」な場所です。

木の根っこが突然出ていたりするので、バランスを取らないと上手く歩けません。

小さい頃から、山や野原など足元の悪い所で遊び、小さい怪我を経験している子どもは、自分の軽率な行動がどのような結果を招くかを学んでいます。また、道具などがなくても、枝や葉っぱで遊びを見つけていくことも子どもにとって大切な経験です。

『こういう時はどうしよう』と考える癖がつくと『なくてもいいかも』と気が付いたり、『便利なものはありがたいな』と当たり前の事に感謝出来るようになります。

目の前のものを当たり前に受け入れるのではなく、便利を選ぶか不便を選ぶかを自分で選択する事が大切です。

その他、『スマホを使わない』『紙とえんぴつだけで遊ぶ』『道具なしで広場や砂場で遊ぶ』など「プチ不便」を子どもと一緒に楽しんでみて下さい。

毎日の生活の中で知恵を働かせてみると、自分で問題を解決しようと出来る子どもに育つはずで